

遅ればせながら新年おめでとうございます。

今年は大変難しい年と伝えられ、私共の様に田舎で商いする者の常として悩み苦勞の多い毎日を過ごしております。

前回は木更津築地地先の出店是非について、ご質問させて頂きました所、さっそくご返事を賜りありがとうございます御礼を申し上げます。

さて、お忙しい折と存じますが、今回は思い切って貴社の出店と地域社会と共存の為と考え、次の様な提案をお願いさせていただき、ご再考下されば幸甚と存じます。

最近の大規模小売店の経営状況を拝見いたしますと商圈百万人以上でないとい採算が取れないとの結果が多く見受けられます。

貴社が出店予定の築地の商圈は4市合わせて32万人であり、更に近隣を数え合わせても40万人ほどの地域であります。

そのために貴社の出店が決定しましてからは、この商圈内の中小零細業は新規開店、増改築、更には後継者育成まで断念され、廃業する店が多くなりました。多くの市民が働く場所を失い、当然として各商店街の廃墟化が進み、一般市民の資産価値まで暴落させる要因となっております。

提案であります、我が国の食料は輸入依存が凡そ70%であります。

今後新しい農業政策が進められると思いますが、大きな期待はできないと存じます。私の聞くとところによれば、これらの輸入食糧の保税倉庫を東京湾口に設置して、輸入食糧の加工、製造、そして物流基地としての機能を求める声があります。

首都圏凡そ4千万人の台所を考えれば、尚更であります。立地的にはやがて圏央道につながるアクアライン、羽田、成田空港に隣接する築地はまさに格好の地であります。

羽田空港の新滑走路が完成すれば、乗降客6千万人は1億人となり、羽田はオーバーフローとなると存じます。東京オリンピックの可能性も考えれば尚更であります。

これからの卸売市場のあり方を考えれば、木更津魚市場、青果市場をも誘致して卸売市場、観光市場として活用するのも一策かと存じます。

更に、貴社への提案であります、木更津駅前の「旧そごう」跡地の活用であります。行政、関係者の努力も空しく、なかなか好転せずであります。

貴社の再開発によって生鮮品を中心とした市民ニーズにこたえる店舗展開をお願い申し上げます。

最後に特と申し上げたい事は、第1には貴社が築地を選ばれたのは、ウォールマート等、競争他者に先手を打たれたと存じますが、しかし出店が大幅に遅れますと築地を餓殺しにするのではとの疑問が生まれます。

第2には、貴社が今後話し合いを続けたいとの不明確なものでなく、出店進退を明確に表明して下さいれば、貴社の予定する商圈内で働く凡そ70%の市民を守って行く私達の今後の柔軟な対応を決めることができます。

地域の中小企業には、地域の市民と共に生活を守り、地域を育てて行く務めがあるからであります。御賢察下さり、鶴首してお返事をお待ち申し上げます。敬 白

秋元 秀夫

この手紙は1月下旬に秋元個人名で送付致したものです。2月末にその返事と思われる新聞発表があり、「木更津市とは今後話し合いを続ける」と言う微妙な記事でありました。